

拝啓 今年も早や年の暮れとなりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今は花は山茶花、紅葉が一部残り、朝日の具合ではきれいに見えます。

今回から、小西芳之助先生の『わが主イエスよ——恵心流キリスト教・説教集——』より引用いたします。この本は、平成28年12月に出版されましたが、本誌読者の佐藤昭夫さんが、今までに出版された小西先生の本の中で最も素晴らしい、何十冊か増し刷りをして友人に配りたい、と大層ほめて頂いたので、エンカウンターでも取り上げることにしました。

「わが主イエスよ」の元になった説教は、小西先生の最晩年、昭和51年から53年にかけて、高円寺東教会で、クリスマス、新年、などの機会に話された特別の説教——主に「わが主イエスよ」と称名するだけで救われる、永遠の生命を頂き、復活する者となるという恵心流キリスト教に関する説教を中心に収めてあります。この本の元になった説教を編集

したのは故村山^{げん}愿先生であります。村山愿先生は、小西先生が残された聖書の講解説教のカセットテープを、点字図書館の協力を得てダビングを行ない、約30名の方々に頒布する伝道が続けられましたが、最後に、小西先生の最晩年の特別の機会に話された説教を「特別説教」として編集し、同じように頒布されました。小西先生の最晩年の説教集ですから、小西先生が、最後に伝えたかった最も大切な内容が含まれていると思います。

今回のエンカウンターの中の「法然上人の言葉」の項に、

「この法然上人の言葉を私に当てはめましたら、『信じても信ずべきはロマ書10章9節から13節まで、頼みても頼むべきはロマ書10章9節から13節まで』

我々の信仰の根拠は、『聖書』の文句です」とありますが、仏教の信者が、お経の文句に頼るように、クリスチャンは聖書の言葉に頼りたいと思います。

11月24日(日)富山県射水市で南原繁シンポジウムが開かれ、講師として招かれ、「南原繁の生涯に学ぶ」という題で、30分話す機会を頂きました。私は、その講演の最後で、次のように述べました。

「南原先生から、我々が学ぶものは、「平和」「国民共同体」「教育」のような国家レベルのものから、個人レベルのものまで、沢山あります。個人レベルで私達が学びたいと思うこと、というより私が南原先生から学んだことには、次のようなことがあります。

① Do the nearest duty。目の前に置かれた義務をなせ。これは、南原先生が内村鑑三や新渡戸稲造から学んだカーライルの『サター・リサートス(衣服哲学)』に出てくる言葉。これは、「小事に忠実なものは大事にも忠実である。」という聖書(ルカ16・10)の言葉と同じような意味だと思います。

② 勇気。勇気とは、イエスをイエスと言い、ノーをノーということ。平和か戦争かの岐路に立たされた時、「平和」にくみすること、これが勇気ある生涯である。内村鑑三先生は、『後世への最大遺物』の中で、後世へ誰でもが残すに足る立派なものが一つある、

それは「高尚にして勇ましい生涯」と述べていますが、祖国が戦争へ差しかかった時、ノー！ということ、これこそ高尚にして勇氣ある生涯と思う、と述べておられます。

- ③ 志を立てよう。志を立てて晩年を送りたいと思います。南原研究会を始められた鴨下重彦先生が、亡くなる1週間前の南原シンポジウムでの講演で述べられたことも、志を持って、ということでした。
- ④ 規則正しい生活。南原先生は、カントにならい、毎日規則正しく散歩をされました。散歩が出来る人は、散歩の習慣は大切だと思います。散歩のとき、前向きの思考、ひらめきが起こるように思います。
- ⑤ 学校で自分が教えて頂いた先生を尊敬しよう。南原先生は、特に小学校時代、中学校時代の先生を尊敬されましたが、見習いたいと思います。
- ⑥ 本の上での先生を持とう。尊敬できそうな著者に巡り合ったら、その人の本を集中的に、繰り返し読むことです。南原先生の本の上の先生は、プラトン、ルソー、カント、フィヒテなどでした。晩年は、ヒルティエの本を読むことを勧められました。
- ⑦ 友情が大切なものだとことを覚えておきましょう。人生の分かれ道に立ったとき、親友のアドバイスが役に立っていることが多いものです。南原先生は、三谷隆正、高木八尺、坂田祐などと、終生深い友情を結ばれました。
- ⑧ 南原先生は、信仰が大切だということを強調されました。信仰は、非合理の世界であり、意思・決断が必要であるとも言っておられます。傍観者ではなく、信仰の世界に思い切って飛び込んでみる必要があると思います。南原先生が、戦後のオピニオンリーダー、戦後教育改革、東大改革などで、あのような大きな働きをされたのも、内村鑑三先生から学ばれたキリスト教の信仰が背後にあったからだと思います。
- ⑨ 人の悪口を言わないこと。南原先生は、人の悪口を言わない人でした。酒席などで、人の悪口を言いたくなったら、口にチャックをしましょう。
- ⑩ 手紙には、すぐ返事を書きましょう。私と南原先生の出会いのきっかけは、私の手紙に対して、先生から頂いた1枚のはがきでした。

南原先生は、時代を超えて、実に学ぶところが多く、教養豊かな先生です。ぜひ、みなさんも、南原先生の本を読み、話を聞かれ、跡を訪ね、南原先生に学ばれば、豊かな人生を送ることができるようになると思います。南原先生の尊敬される新渡戸稲造や内村鑑三の本も読まれるとよいと思います。特に新渡戸稲造では『一日一言』、内村鑑三では『後世への最大遺物』、『代表的日本人』が良いでしょう。」

射水市のシンポジウムで、以上のような話を致しましたが、エンカウンターでも紹介させて頂きました。

このエンカウンターは、暮れの内に着くと思いますが、皆様風邪などひかれぬよう注意され、よいお年をお迎えください。

平成30年12月23日

山口周三

エンカウンターの読者各位